♪「第31回 平山アコーディオン教室 演奏発表会」ぶらり訪問記♪

2019 年 8 月 17 日(土)13:00 開演　川崎市中原市民館 2階多目的ホール

３１年の中で様々なことがございましたが、アコーディオンは本当に幅のある楽器でございます。アコーディオンがもっともっと身近になるような時代が来ることを夢見て参りました。今回の発表会もとにかく皆さん自分の好きな１曲を徹底的に弾きまくるということで臨みます。私のところは１曲を完全にやらないと次の曲に進まないというのが特徴でして、きょう発表される皆さんも大変な想いをしてこられたと思います。どうぞ最後まで皆さんの温かいご支援をいただければ幸いでございます。（主宰者、平山尚氏挨拶より）

途中休憩を挟んで、２７名が独奏、二重奏が１組、合奏が１組、フィナーレに「いつでも夢を」を会場の皆さんと一緒にうたって終了というプログラムでした。

主宰者があいさつで述べているようにソロの皆さんは、トップバッターで演奏された中学生（昨年１１月から練習と紹介）からベテランまでだれ一人譜面を見ていません、二重奏も含めすべて暗譜で弾き切っていました。この点は毎回聴いていて感心させられるところです。

ご高齢になられた演奏者もいらして、かつてのように平山教室の特徴の１つでもあった「全員立奏」ではありませんでしたけれども今回も９割方は立奏です。

最初に演奏された中学生は「水兵さんの踊り」を演奏され、会場からは「まだ半年ぐらいですごいね」との声が聞こえました。

また、「ゴンドラの唄」には会場のハミングが聞こえました。民謡と黒人霊歌が好きだという女性は「ダニーボーイ」を演奏、ひまわり柄のスカートが印象に残っています。

「カミニート」を演奏された女性は、曲名を調べ、どこまで表現できるかとコメントしていました。高齢になり頑張りだけで練習を続けているという男性は座っての演奏でしたけれおも「白い花の咲く頃」を暗譜で、年季を感じさせる歌伴のようでした。前半最後に演奏された女性はベローシェイクの入った軽快な曲「ジョリー・キャバレロ」をきれいに弾いていました。

休憩後の最初は、法被を着て登場。北島三郎セレクション「～函館の女・風雪ながれ旅・薩摩の女～」を時間の関係で１番だけのメドレーで演奏、会場からは時折ハミングが聞こえ気持ちよさそうに弾いていました。

「ボルプタ」を弾いた女性の方は座っての演奏でしたけどフレーズの終わり方がきれいな演奏で、幾度か聴いているけれども上手くなったなと思います。また、今まで発表会でこの曲を弾いた人はいないそうなので、「今日聴いて誰か弾いてみたいと思ってくれたらうれしい」と紹介された女性は「ハンガリー舞曲第一番」を暗譜で弾き切りました。表現の難しい曲をきれいに弾いていていました。

また、持ち運べる楽器ということで気楽に始めて気がついたら魅力にはまったという女性は、アコーディオンを始めたからこそ出会えた人、出会えたこと、気持ち、人生の幅がさらに面白い方向へ広がったような気がすると紹介され「ダークアイズ変奏曲」を演奏。立奏での体の使い方が上手で、切れの良い素敵な演奏でした。この辺りになるとすでに講師をされている方たちの演奏になります。次の「ペルシャの市場にて」も８分近い曲を暗譜で弾き切る力はさすがです。

合奏に入る準備の間、お客様からリクエストがあり、サプライズで楽器の説明が入りました。

合奏は講師の皆さんによる演奏です。途中譜面が落ちるハプニングがあっても慌てることなく弾き切っていたので、合奏も暗譜していたのでしょうね。若い伸び代のある方が多く次回も楽しみな発表会でした。

（記：乙津）

♪「JAPC アコーディオン 夏祭り 2019」ぶらり訪問記♪

2019 年 8 月 24 日(土)12:00 開演　日暮里サニーホール

主催:JAPC 日本アコーディオン振興協会　協力:ローランド(株)、(株)谷口楽器、(株)イケベ楽器店 鍵盤堂、(株)モリダイラ楽器、JAA、(株)トンボ楽器製作所

■JAPC 代表小川正浩氏は、ようやく出演者もお客さんも皆さん楽しんで頂ける会ができたかなという9回目です。北は北海道、南は九州全国から32名の方々、また、今回はアンサンブル、歌などがふんだんに盛り込まれていて、アコーディオンの魅力を最後まで満喫できるのではないかと思います。と挨拶されていました。

プログラムは2回休憩を挟み3部構成です。

最初の演奏者は北海道から参加された塚越さん、クロマチック・アコーディオンを独学で初めて20年になるといいます。フリーベースで「G 線上のアリア」を演奏。

2 番目の演奏者佐藤さんは、全くの初心者が1年間でどこまで弾けるようになるかと昨年の11月からチャレンジしたという池部楽器店のスタッフで「UN GIORNO A TOLOSA」を暗譜で演奏。

3番目の演奏者は小学生から出場しているパランガダンそなさん、私も何回か聴いています。中学2年生になり今回「ROCK TOCCATA」を演奏。

4 番目のサジ ヒロミさんは、21鍵 12 ベースのピンク色の可愛いアコーディオンで弾き語りです。

5 番目はシャンソンやロシア歌曲を原語で歌うボーカルとアコーディオンのデュオ(キャリコ)で「他人の顔」より“Waltz”を演奏(写真)

Vo.前原さん、Acc.和里田さん。

6 番目の満武さんは、大学に入ってアコーディオンを始め、山歩きの中で楽しんできました、今日弾く「コンドルは飛んで行く」この曲の魂をアコーディオンで表現したいとの紹介でした。

7 番目は山梨から参加された倍田さん。音大出の方でアコーディオンを始めてから日は浅いけれども、魅力に取りつかれ本業のピアノより夢中になっていると紹介され、曲は「NANY」を演奏。

8 番目は、のりゆみ(若松さんと渡部さん)の二重奏です。演奏曲「infinito Grego」はユニット結成のきっかけとなった曲で 5 年ぶりの演奏とのことです。

9 番目の伊藤さんは、初参加で、多くのアコーディオン仲間に出会えたことに感謝しながら演奏したいと「Moon River」を演奏。

10 番目の西之原さんは、1 年半前にチャラン・ポ・ランタンの小春さんにあこがれて始めたそうです。毎日楽しく弾いていると紹介され、小春さんの弾いていた曲で虜になったという「Style Musette」に挑戦。

11 番目は堀内さん、日頃はスラブ音楽を演奏されているとの紹介ですで。小さな楽器で工夫しながら編曲するのが楽しいとおっしゃっていました。演奏曲は自身の編曲でピアソラの「Chau Paris」でした。

1 部の最後は jucgiocy(本田さん&須藤さん)の二重奏。赤と青のカラフルな楽器で、付け髭や帽子で変奏して「スーパーマリオブラザーズのテーマ」を演奏。

……休憩……

第 2 部はアンサンブル、スパッツィオ・クインテットの明るい演奏で始まりました。写真中央が Acc&Vo の(RIEKO)さん、右が Acc の matzo さん、Pf&Vo は(三藤あや)さん、左が Vn の(竹内章人)さん、そして Dr は matzo さんの息子で 5 歳の(コマッツォ)さん(紹介されると会場から驚きの声と拍手が起きた)。今日は 5 人での演

奏ですけど、普段はトリオでも自由自在に演奏されているとのコメントです。曲は「Time To Say Goodby」を演奏。

2 部の 2 番目は、福岡から参加された森さん。JAPC への参加を毎年楽しみにしていて、忙しいので難易度よりも自分の楽器の特性にも合っているミュゼットを毎月 1 曲挑戦して今年は 5～6 曲弾けるようになることを目標にしているとのコメントで、「パリのお嬢さん」を演奏。

次（全体で 15 番目）はアルプス地方の服装で登場。好きなヨーデルを、アコーディオンが弾ければいつか弾き語りができる。それを目標に頑張ってきたとおっしゃる渡辺さん。曲は「ウグイスのヨーデル」。

16 番目は会社の昼休みに毎日練習されているとおっしゃる田代さん。曲は「Beritwaltz」

17 番目は、西島貴子さん（Sax）と酒詰貴之さん（Acc）によるアンサンブル。北海道から昨年上京されたというアコーディオンの酒詰さんは、楽器を持って電車で移動することが大変なんだとコメントしていました。曲はジャズのスタンダードナンバー「There will be never another you」。

18 番目は、絵本の読み語りに音楽を入れたいとアコーディオンを始めたという金谷さん。最近は人前での演奏に慣れるようにとパン屋さんの前で弾かせてもらっているそうです。曲はピアソラの「Close Your Eyes And Listen」。

19 番目は、アコーディオンの無限の可能性を多くの人に知って欲しいという細内さん。ミュゼットの「Grain de Fantaisie」と音楽ゲームの「Riot of Color」の 2 曲演奏。

20 番目は、五月の風（萩本さん＆石垣さん）による二重奏。西洋で最も美しい世界遺産のベネチュアを思い浮べていただけたらと、「Primavera a venezia」（ベネチュアの春）を演奏。

21番目の、毎年夏に様々な教室の方が集まるイベントに参加させていただけることに感謝していますと話す石井さんは、「DARK EYES」を演奏。おなじみの立奏でしっかりした演奏です。

22 番目は静岡から参加された伏見さん。自身の誕生日なので勇気を振り絞ってステージに立ち皆さんと一緒に歌いたいと「誰か故郷を想わざる」を演奏。会場の皆さんも歌いました。

……休憩……

23 番目は第 3 部のトップバッター。中部アコーディオンクラブから 6 名（山口さん、大野さん、小原さん、福澤さん、武藤さん、森元さん）で参加。「Mas Que Nada」を演奏（写真）。

24 番目は 2 回目の参加だとおっしゃる伊藤さん。ピアソラの「S.V.P」を演奏。

25 番目は、アコーディオンを始めて 10 年、サラリーマンなので練習は土曜日と日曜日、最近なんとなく弾けるようになってきたように思うとコメントの中島さん。ボタンアコで「NANY」を演奏。

26 番目は、コメハコムギハ（平永さん＆久保さん）による二重奏。ユニット名は、お米派、小麦派との説明でした。「jalousie」を演奏。

27 番目は、アコを初めて 5 年 JAPC に参加するのも 4 回目になったとおっしゃる高野さん、曲は「PICCOLO-RAG」を演奏。

28 番目は、福岡で習い始めて 2 年ちょっと、難しい曲だけどどうしても弾いてみたかったとコメントのあった和泉さん「Bossa Nova」を演奏。

29 番目は、子どものころやっていたアコーディオンを、自身のお子さんが大きくなってきたので練習を再開したという山田さん、演奏した曲は「Je to veux」

30 番目は、最後まで体力と気力を保って弾き切れるように頑張るとコメントされた渡邊さん。曲は「ウクライナテーマ変奏曲」ドイツでは美しいミンカというタイトルで知られているそうです。

31 番目は、オリジナル曲をやってみたかったとおっしゃる阿部さん。オリジナル曲「Odd meter」を演奏。

最後は、Deux Marches:Acc（Miyack） Vn（牧千恵子）さんによるアンサンブル。①Defi～挑戦～②La Alegria～輝きのとき～、2 曲演奏。

■最後まで楽しめた夏祭りで、来年は 6 月 27 日開催ですとお知らせがありました。（記：乙津）

2019年仙川で生まれた演劇集団「キズ-ボン Bonds」が贈る
♪「ハートウォーミング・リーディング音楽劇」ぶらり訪問記♪

2019 年 8 月 31 日(土)13:00 開演　アロック新宿スタジオ

この音楽劇に参加するアコーディオン仲間の村上一郎さんから公演の案内を頂きました。アコ―ディオン仲間の可能性に挑戦する姿を紹介したくて足を運んでみました。

会場は中央線大久保駅から徒歩３分の住宅街の中にあるこじんまりとした劇団の稽古場（スタジオ）でした。

今日と明日、それぞれ２回公演のスケジュールで、初日の最初の公演を観てきました。旗揚げ公演のようなのでプログラムから一部紹介いたします。［キズ-ボン Bonds は今年２月のワークショップから始まりました。キズ-ボンには「いつかオリジナルを上演する」「山谷典子作品を辻輝猛演出で」という二つの目標があったのでせっかくなら歌ったり踊ったりできるものをと選んだのが今回の２作品です。間もなく戦後７０年を迎える、日本にとって大きな節目の時期で作者の山谷典子もそれを大きく意識した脚色でした。］（一部転記）

１幕目は「おじいさんのランプ」（作：新美南吉）児童文学として６０代７０代の方たちには良く知られた作品です。かなり忠実に演出されていました。衣装も全員着物で登場。子どもたちがかくれんぼしているところかは始まります。蔵から孫の東一が持ちだしたランプがおじいさんの目に留まり、かつてランプ売りをしていたおじいさんは、長い間忘れていた昔の思い出を孫に語り始めるのです。

ランプから電気に変わろうとしていた時代の物語ですが、まだランプを必要としているお客さんもいる中できっぱりと止めてしまいます。最後は「私のやり方は少し馬鹿だったが、私の商売のやり方は、自分でいうのもなんだが、なかなか立派だったと思うよ。わしの言いたいのはこうさ、日本が進んで、自分の古い商売がお役に立たなくなったら、すっぱりそいつを捨てるんだ。いつまでも汚く古い商売にかじりついていたり、自分の商売が流行っていた昔の方がよかったといったり、世の中の進んだことを恨んだり、そんな意気地のねえことは決してしないということだ」そんな台詞で幕がおります。

この劇の中で台詞や歌に合わせてアコーディオンが使われます。アコーディオンのリードが振れて出る音は人間の声に良くなじむ音色だなあと思いながら聴いていました。

２幕目は「まほうのたね」（フランク・パブロフ「茶色の朝」より）作：山谷典子　演出：辻輝猛

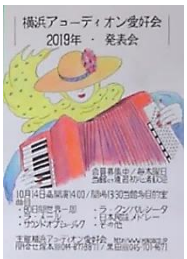
この作品は初めてです。１０代の二人の娘が７０年後に咲くという１粒の魔法の種を植え、その７０年後に再会し花の咲くところを二人で見ようと約束をするところから始まります。

ある日突然、茶色は素晴らしい、我が国が茶色い国だということを世界に知ってもらうために“茶色絶対偉い法”が出来、犬、猫も茶色でないと法律違反で連行される事態に・・・プログラムには５年前に書いた作品とあるけれども、どこか今の世の中と似ていませんか。劇団員のセリフも聴きやすく２幕ではアコーディオンは使われませんでしたけれど、照明、音響の効果も良かった。１,２幕共に伸びのある演技で今後に期待したいと思いました。　（記:乙津）

写真は、２幕終演後に撮らせて頂いた集合写真です。（１幕では皆さん着物姿でした）

♪「横浜アコーディオン愛好会 2019 発表会～アコーディオンのつどい～」ぶらり訪問記♪

2019 年 10 月 14 日(月･体育の日)14:00 開演　横浜青年館『多目的室』



大雨をもたらした台風一過の１４日（体育の日）、今年も横浜アコーディオン愛好会の発表会に足を運んでみました。

☜入り口で迎えてくれたポスター、その横にはおなじみのウェルカムボードが置かれています。

会場は愛好会の皆さんが日頃練習に使っている場所です。衣装は全員上着は白、下は黒で統一され、男性のシャツの襟には銀色のリボンがワンポイントになり光っていました。

プログラムは、途中休憩を挟みオープニングで演奏された横浜アコのテーマソングともいえる「８０日間世界一周」他、合奏４つ、独奏が講師演奏を含めて１３曲、重奏が２曲、うたの入った演奏が２つ、他に会場の皆さんと一緒にうたう「歌のひととき」です。

横浜アコーディオン愛好会には、愛好会のメンバーの他に通年で募集している教室があります。オープニングの後、最初の演奏はその教室生３人に講師が入る重奏でした。作曲：ﾖﾊﾝ･ﾊﾞﾚﾝﾄ･ﾘｯﾂｧｰ　編曲：ラース・ホルムの「プレリューディアム」を演奏、短い曲でしたけれどもきれいなメロディーです。

２番目からは独奏が続きます。独奏の最初は、曲に取り組んで半年という男性で、まだ道半ばなので左手リズムを講師にお願いしたと右手のみで「誰か故郷を想わざる」を演奏。素直な演奏で講師の弾くベースとも良く合っていました。

次の女性は、大牟田に住んでいたとき所属していた合奏団では団長が弾くアコーディオンでいつも歌っていた。そして、大牟田の労働者荒木栄さんの作曲した歌をうたうのが約束になっていたので、今日弾く「仲間のうた」もアコーディオンにとても合うので選んだとコメントがありました。「重たい雪を　真っ白にかぶった　あの炭鉱（やま）にも　この街にも・・・」で始まる歌です。

次に、庶民の人生や生き方をていねいに歌っている親しみの持てる曲だと思いますと紹介された曲は「この街で」（作曲：荒井満）、初めて聴く曲だけれどきれいなメロディーです。

「ブーベの恋人」この曲を演奏された男性は、楽器のボディーの塗装がはがれたので、一度すべてはがして、改めて自身で塗り直したと話していました。ラメの入ったブルーでとてもきれいに仕上がっています。会場からは“ほう！”という声、休憩時間に受付横のテーブルに置かれていたので写真を撮っていたら、受付の方が、彼は自動車の板金、塗装の仕事をなさっている方だと教えてくださいました。（関東アコの HP ではカラーでご覧いただけます）

今回は歌の入った演奏が２曲ありました。下の写真は、その一つ「アムール川の波」の様子です。

また、バスアコで「バッハ無伴奏チェロ組曲１番メヌエットⅠ、Ⅱ」を独奏した男性は、津波の被災で名前の知られた大川小学校の山を隔てた漁村で、誰もいない海に向かって想いを込めて弾いた曲ですとの紹介でした。

次に演奏された女性は、ヘンデル作曲「Sarabande Theme and Variation」で、レッスンに通い始めた松永勇次先生が最近編曲されましたと紹介。最初から最後まで重音で流れる演奏で、「パイプオルガンの様だね」との声が聞こえました。

エンディングに用意された４つの合奏は圧巻でした。中でも「日本民謡メドレー」は人気があって他の団体でも演奏されていると紹介されていました。下の写真はエンディングの様子　（記：乙津）

♪「マニュ・モーガン　恋するパリで合いましょう」ぶらり訪問記♪

2019 年 10 月 25 日(金)19:00 開演　めぐろパーシモン小ホール

日本では、フランスのアコーディオニスト、マニュ・モーガンの名前をご存知ない方もいるかもしれません。プログラムからプロフィールを一部転記してみます。

◂お土産のトートバック

1971 年、フラス・ポンタルリエに生まれる。(なので、48 歳でしょうか:筆者記) 10 歳でアコーディオンを本格的に始め、13 歳には奏者としてダンスホールで演奏を行う。

父がアコーディオンクラブの代表であったため、若くしてダニエル・コラン、アンドレ・ベルシュレンヌなど著名な奏者と共演。

1991 年、フランス全土のアコーディオン連盟杯で優勝。1992 年にはアコーディオン世界大会のファイナリストとなる。

また、マルセル・アゾラに勧められ、21 歳より執筆を始めたアコーディオン教則本はフランスにて 20 年以上に渡るベストセラーになる。

2017 年、東急・自由が丘駅 88 周年記念イベント、めぐろパーシモン小ホールでのコンサートのため待望の初来日を果す。

2018 年に於いては、5 月、10 月と 2 度コンサートやイベントのため来日、(今回は 4 回目の来日になる:筆者記)

会場には関東アコーディオン演奏交流会ともつながりのあるアコ仲間の姿を大勢見かけました。

プログラムは途中 20 分の休憩を挟み前半は独奏、後半は、独奏とゲストのつづら 薫さん、つづら かやさんとの共演をまじえた二部構成です。

前半の独奏は、「パリの花」「パリの空の下」「パリの橋の下」から始まり、その後も 3〜7 曲ほどを 1 グループに紹介しながら進みました。演奏曲をいくつか挙げると「ムーラン・ルージュ」「愛の讃歌」「私の回転木馬」「群衆」「ラ・クンパルシータ」「帰ってきたツバメ」「ある愛の詩」等、最後は「アメリのワルツ」で計 23 曲です。

筆者は 3 回目の鑑賞になるけれども、今回の演奏が一番緊張していたようでもあり、想いが強かったのかとがっていたように感じました。今年、日本各地に大きな被害をもたらした台風も、常に強風が吹いていたわけではなくて、思い出してみると、強風の瞬間、ピタッと止むような瞬間、ゆっくり大きく吹くときといろいろありました。これでもかという瞬間、過去の記憶を回想するような時間の流れ、「愛の讃歌」で見せた余韻を残した時間の流れ、「ラ・クンパルシータ」での一気に弾き切る力強さ、「回転木馬」に見る表情、その時々に見せる表情や姿勢が何とも美しい。あんな音がつくれるんだとまさに強風が通り過ぎていったような前半の 40 分でした。

後半も「セ・シ・ボン」「枯葉」「マイウェイ」など 8 曲のメドレーで始まり、続いて「行かないで」他 4 曲を続けて演奏。次のグループの「パリ！パリ！パリ！」にゲストの二人が入り歌い終わると、ゲストのつづらさんもマニュ・モーガン氏と会うのは昨日が初めてでしたということで、しばし演奏者へインタビューコーナーとなりました。

例えば以下のような質疑応答でした。演奏者は学校の先生ということで Q.「教える際に何か心がけていることはありますか」、A.**「どの楽器でもそうですが、少しずつでも毎日練習することです」**。また楽器についても質問、Q.「CD のジャケットなどを見ると今日使っている楽器とは違う楽器で写っているけれど、何台ぐらいあって、その違いは何なのか」、A.**「アコーディオンを集めていたときは家に 15 個ほどあったけれども、全然使わないのはもったいないので売ってしまい、現在は大きいアコーディオン 1 つと、ミュゼットトーンのものと、今日使っている楽器になります。この楽器は、日本に来るためにわざわざつくった楽器で、飛行機に乗るためにつくったサイズです」**。Q.「音は大きいアコーディオンでも一緒ですか」、A.**「アコーディオンの中にはハーモニカが入っていて、高い音域、低い音域、中音域、があってその組み合わせで変わります」「約 5 千個の部品が入っています、これは 8 キロぐらいで**

すけど大きいのは 12 キロぐらいあります、楽器は使っていると次第に音がなじんできます」。Q.「楽器を育てる感じですか」Q.「マニュさんの演奏を聴いて始めたいと思う人がいるかもしれません、初心者はどんなところから始めればいいんでしょうか、何か初心者に良い楽器とかありますか」、A.**「私の教則本も楽器店に置いてありますが、右手で 1 音 1 音バラバラな音で、左手も同様です。そしてタイの付いた切れ目なく流れるような練習、それからクレッシェンド、デクレッシェンドなどでしょうか」**。（写真は演奏に使われた楽器、8 キロぐらいとのコメントです）

「私の生徒で 59 歳で始めた方も、もちろん私のメソッドがとてもいいので（笑）練習して 62 歳で舞台に上がって弾いていたんですけど、彼女は数学の先生で毎日キッチリと練習していました」「本当に少しずつ、1 歩 1 歩進歩していくような感じでつくられているのでいいと思います」。

最後に「オー・シャンゼリゼ」を客席も交えうたい終わると、会場からはアンコールの大きな拍手が起こり、先にゲストが登場。「フランスのパリには有名なロンシャン競馬場があります、日本の騎手武豊さんも出たんですね、きれいで伝統のある競馬場だそうです。ということでアンコール曲にその“ジョッキーの夢”を演奏して下さるそうです」とコメントしているとマニュ・モーガン氏が登場。「競馬なので次第に早くなるので遅れないように一緒に手拍子で付いてきてください。ただし追い抜かないでね」と説明があって、弾き始めました。途中、客席へ降りて演奏しながら一回りするサービスもありました。

拍手はなりやみませんでしたがこれで終演となりました。終演後のロビーには購入した CD にサインをしてもらうための長い列ができていました。筆者も今回発売された「恋するパリで会いましょう」の CD を購入、サイン待ちの列に並ぶと友達がいて、「育ってきた環境が違うからだろうけれどもやっぱり違うね、独特な節回しというかリズム感っていうかね」「風景が日本の風景と違うから、それが身体にしみこんでいるからだと思う」「リズム感の違いを強烈に感じた」「文化の違いも強烈に感じた、こういう音楽をやるにはちょっとフランスに行って勉強するのも必要なのかもしれないね」「そうね、ドイツにはドイツの良さが、イタリアにはイタリアの良さが、フランスにはフランスの良さや音楽があるんだろうね」「フランスへ行って勉強するのも必要なのかもしれないね」「そうね、勉強するなら若いうちにね」そんなやり取りをしながら CD にサインをしていただき、記念にマニュ・モーガン氏と一緒の写真を友人のスマホで撮っていただき、会場を後にしました。写真は CD にサインするマニュ・モーガン氏　　（記：乙津）

「マニュ・モーガン日本事務局」よりお知らせ

≪関東アコーディオン演奏交流会・コラボ企画！≫

■抽選で 2 名様に下記プレゼントを用意しました。

①特製バック　②キーホルダー

・恋するパリで会いましょう特製バック・キーホルダーはマニュ・モーガンが“アコーディオンを練習しているか見張っている”キーホルダー。

■①&②セットで 2 名様　■受付：11 月 30 日まで

応募方法　下記、専用 URL から応募ください。

http://manu-maugain-japon.com/kanto/